

沖縄諸島久米島で採集されたタマムシ科甲虫（コウチュウ目）

瑤寺 裕¹⁾・吉武 啓²⁾・中村 涼³⁾

¹⁾ 〒 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室

²⁾ 〒 901-0336 糸満市真壁 820 (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター

³⁾ 〒 286-0035 成田市囲護台 3-5-5

Buprestid Beetles (Coleoptera) Collected on Kumejima Island in the Okinawa Islands, Ryukyus, Southwest Japan

Yutaka Tamadera, Hiraku Yoshitake and Ryo Nakamura

Summary. A total of ten buprestid beetles were collected on Kumejima Is. in the Okinawa Isls., Ryukyus, Southwest Japan. The following five species are newly recorded from the island: 1) *Chrysodema dalmanni* (Eschscholtz, 1837), 2) *Anthaxia (Haplanthaxia) ihanatsumi* Chûjô, 1970, 3) *Toxoscelus akiyamai* Hattori, 2014, 4) *Agrilus okinawensis shiozakii* Tôyama, 1985, and 5) *Trachys dilaticeps* Gebhardt, 1928. In addition, a list of known records of buprestid beetles from the island is also given.

はじめに

久米島は沖縄諸島の最西部に位置し、同諸島内で2番目の大きさ(面積約60 km²)を誇る島である(図1)。同島は沖縄諸島の中でも貴重な自然を有する島として知られており、島内最高峰の宇江城岳(標高約310 m)をはじめとする北部山塊とアール岳(標高約287 m)をはじめとする南部山塊には、スダジイを優占種とする照葉樹林が広がっている(図2, 3)。

久米島からはこれまでに8種のタマムシ科甲虫が記録されている(林, 2006; 大桃・福富, 2013; 酒井, 2017)。その中でも、エサキクロタマムシは久米島を代表するタマムシで、同島は貴重な生息地の一つとなっている。現在、久米島は沖縄諸島内で沖縄島(44種)に次いでタマムシ相の調査が進んでいる島であるが、島内では比較的良好な森林環境が発達していることを考えると記録されている種数はあまりに少なく、実際にはより多くの種が分布しているものと思われる。

筆者らは2018年の6月(瑤寺・吉武)および7月(吉武)、8月(中村)にそれぞれ久米島を訪れて昆虫相の調査を行った。その結果、同島初記録となる5種を含む10種のタマムシ科甲虫を採集することができた。本稿では、久米島産タマムシ相に関する過去の知見をまとめたうえで、筆者らの採集記録を報告する。また、東京農業大学昆虫学研究室の長野宏紀氏と金子直樹氏のご厚意により各氏の採集品を検査することができたので、併せて報告したい。なお、全標本共通であるため採集地名から沖縄県島尻郡久米島町を省略したほか、採集者名を以下のように略記した：金子直樹(NK)；中

村涼(RN)；長野宏紀(HN)；瑤寺裕(YT)；吉武啓(HY)。検視標本は、中村の収集品を除き瑤寺が保管している。

これまでに久米島から記録されている種

採集記録の報告に先立ち、久米島既記録8種について以下にまとめる。なお、記録されている採集地名が旧村名(具志川村・仲里村)の場合は地名をそのまま引用する。

ルリタマムシ亜科 *Chrysochroinae* Laporte, 1835

1. タマムシ奄美・沖縄亜種 *Chrysochroa fulgidissima alternans* Waterhouse, 1888

林(2006)によって具志川城跡から記録されたほか、具志川からも記録されている(定木・久保田, 2016)。

2. アヤムネスジタマムシ *Chrysodema lewisii* Saunders, 1873

Kurosawa(1954)によって久米島から記録された。佐藤(1995)も同島から本種を記録しているが、いずれも詳細な地名は明記されていない。アール岳からも記録されている(大桃・福富, 2013)。

3. ウバタマムシ久米島亜種 *Chalcophora japonica kumejimana* Kurosawa, 1974

Kurosawa(1974)によって久米島から記載されたが、詳細な地名は明記されていない。具志川村だるま山および登武那覇園地、仲里村からも記録されている(大桃・福富, 2013)。

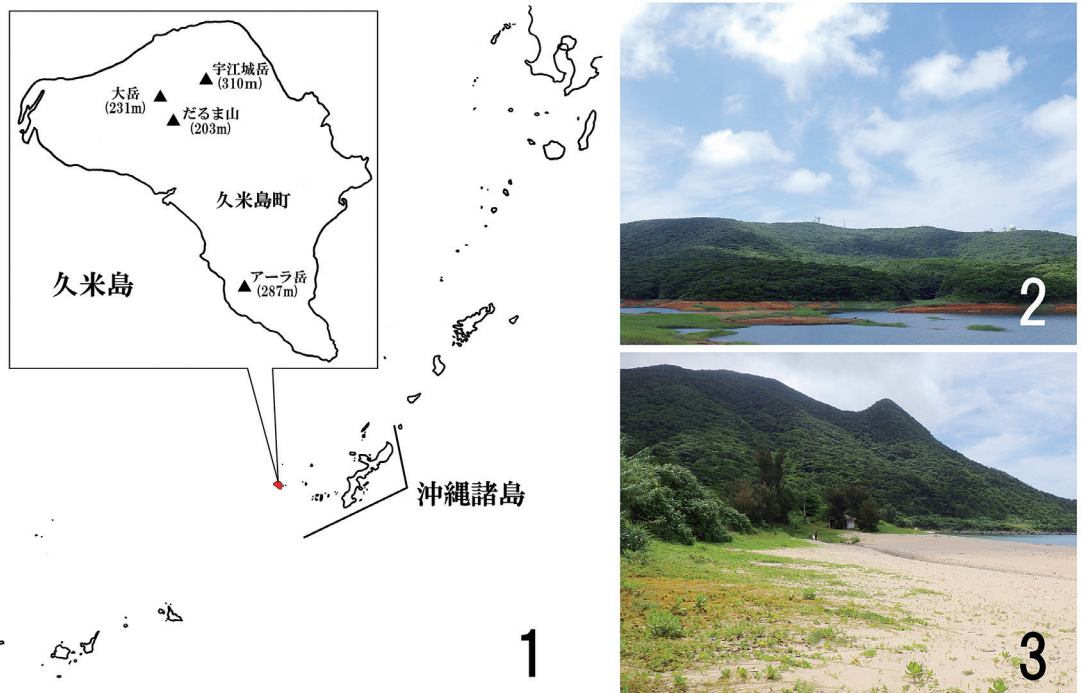


図 1-3. 沖縄諸島久米島：1、久米島の位置概念図；2、上江州ダムからの景観（北部山塊の一部）；3、アアラ浜からの景観（右上がアアラ岳）。

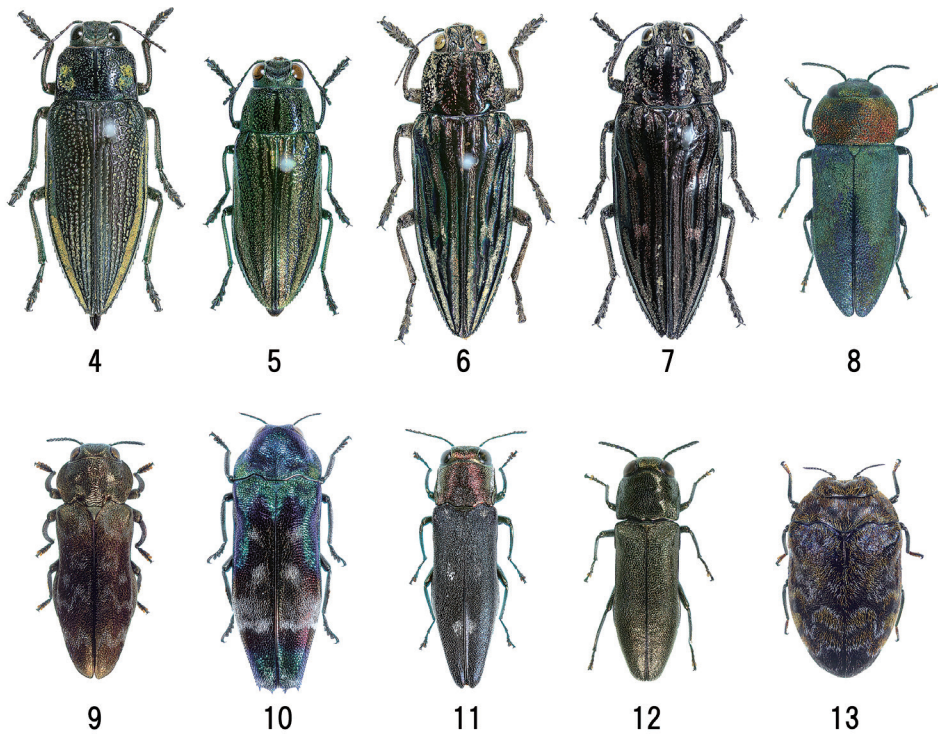


図 4-13. 久米島から採集されたタマムシ類：4、アオムネスジタマムシ；5、アヤムネスジタマムシ；6、ウバタマムシ久米島亜種；7、サツマウバタマムシ沖縄・八重山亜種；8、オキナワヒメヒラタタマムシ；9、アキヤマクリタマムシ；10、ミドリナカボソタマムシ；11、オキナワナガタマムシ沖縄亜種；12、ウエノナガタマムシ；13、オオダングラチビタマムシ。

4. サツマウバタマムシ沖縄・八重山亜種

Chalcophora yunnana abnormalis Miwa et Chûjô, 1935
高良・東 (1974) によって久米島から記録された。秋山 (1990) も同島から本種を記録しているが、いずれも詳細な地名は明記されていない。だるま山からも記録されている (小林, 1988)。

クロタマムシ亜科 Buprestinae Leach, 1815

5. エサキクロタマムシ *Buprestis (Ancylocheira) esakii* Kurosawa, 1954

小林 (1983) によって具志川村から記録された。仲里村真謝および島尻からも記録されている (小林, 1996; 市川, 1997; 稲田, 1999)。

ナガタマムシ亜科 Agrilinae Laporte, 1835

6. ミドリナカボソタマムシ *Coraebus hastanus* Gory et Laporte, 1839

酒井 (2017) によって仲村渠から記録された。

7. ウエノナガタマムシ *Agrilus uenoi* Kurosawa, 1963

秋山 (1993) によって大岳から記録された。

8. デグチナガタマムシ *Agrilus deguchii* Tôyama, 1985

Tôyama (1985) によって大岳から記録された。

採集記録

ルリタマムシ亜科 Chrysochroinae Laporte, 1835

1. アオムネスジタマムシ *Chrysodema dalmanni* (Eschscholtz, 1837) (図 4)

検視標本: 5 exs., 鳥島久米島野球場, 24. V. 2016, HN & NK; 5 exs., 同地, 3. VI. 2018, HY & YT; 9 exs., 同地, 4. VI. 2018, YT; 2 ♂♂, 大原シンリ浜キャンプ場, 21. VIII. 2018, RN; 5 ♂♂, 同地, 24. VIII. 2018, RN.

久米島初記録。林 (2006) は本種を久米島から採集したと述べているが、採集データが示されていないため、今回の検視標本を以って同島初記録とした。本種は、日本国内において奄美大島以南の島々に分布することが知られており (大桃・福富, 2013; 稲田, 2016; 酒井, 2016), 最近では八重山諸島の黒島および小浜島からも記録されている (檜木, 2018)。寄主植物であるモモタマナ (シクンシ科) のルッキングおよびスウィーピングによってまとまって得られた。

2. アヤムネスジタマムシ *Chrysodema lewisii* Saunders, 1873 (図 5)

検視標本: 1 ex., 上江州だるま山園地, 5. VI. 2018, YT; 1 ex., 宇江城, 18. VII. 2018, HY.

だるま山園地では飛翔中の個体を偶然発見し、宇江城では灌木のビーティングによって得た。

3. ウバタマムシ久米島亜種 *Chalcophora japonica kumejimana* Kurosawa, 1974 (図 6)

検視標本: 1 ex., 島尻アール林道, 4. VI. 2018, YT.

寄主植物であるリュウキュウマツ (マツ科) のスウィーピングによって得られた。

4. サツマウバタマムシ沖縄・八重山亜種

Chalcophora yunnana abnormalis Miwa et Chûjô, 1935 (図 7)

検視標本: 1 ex., 上江州だるま山園地, 5. VI. 2018, YT.

寄主植物であるリュウキュウマツのスウィーピングによって得られた。

クロタマムシ亜科 Buprestinae Leach, 1815

5. オキナワヒメヒラタタマムシ *Anthaxia (Haplantaxia) ihanatsumi* Chûjô, 1970 (図 8)

検視標本: 3 exs., 上江州だるま山, 23. IV. 2015, HN; 1 ex., 西銘だるま山園地, 5. VI. 2018, YT; 8 exs., 上江州だるま山園地, 5. VI. 2018, YT.

久米島初記録。本種は、久米島の他に沖縄島および座間味島、伊平屋島、大東諸島における分布が確認されている (小林, 1987; 大桃・福富, 2013; 稲田, 2018)。寄主植物はリュウキュウマツであるが成虫には訪花性があり、しばしば花から採集される。今回の調査では、シバニッケイ (クスノキ科) およびアカメガシワ (トウダイグサ科) の花からスウィーピングによって得られた。

ナガタマムシ亜科 Agrilinae Laporte, 1835

6. アキヤマクリタマムシ *Toxoscelus akiyamai* Hattori, 2014 (図 9)

検視標本: 2 exs., 儀間アール林道, 4. VI. 2018, YT; 1 ex., 西銘だるま山園地, 5. VI. 2018, YT.

久米島初記録。本種は、久米島の他に沖縄島および渡嘉敷島、伊平屋島における分布が確認されている (Hattori, 2014; 稲田ら, 2016; 稲田, 2018)。寄主植物であるスダジイ (ブナ科) のスウィーピングによって得られた。検視した3個体はいずれも

表 1. 久米島産タマムシ類の一覧表（奄美大島および沖縄島、宮古島との分布の共通性を示す）。

種・亜種	分布の共通性			
	奄美大島	沖縄島	久米島	宮古島
1 タマムシ奄美・沖縄亜種	+	+	+	
2 アオムネスジタマムシ	+	+	+	+
3 アヤムネスジタマムシ	+	+	+	+
4 ウバタマムシ久米島亜種			+	
5 サツマウバタマムシ沖縄・八重山亜種		+	+	+
6 エサキクロタマムシ		+	+	
7 オキナワヒメヒラタタマムシ		+	+	
8 アキヤマクリタマムシ		+	+	
9 ミドリナカボソタマムシ	+	+	+	+
10 オキナワナガタマムシ沖縄亜種	+	+	+	
11 ウエノナガタマムシ	+	+	+	
12 デグチナガタマムシ	+	+	+	+
13 オオダンダラチビタマムシ	+	+	+	

頭部および前胸背板、上翅基部が唐金色で、Hattori (2014) の記載とは異なる体色を呈しているが、その他の特徴は一致していることから本種とした。

7. ミドリナカボソタマムシ *Coraebus hastanus* Gory et Laporte, 1839 (図 10)

検視標本：2 exs., 上江州だるま山, 12. VI. 2014, HN; 2 exs., 島尻アール林道, 4. VI. 2018, YT; 1 ex., 儀間, 6. VI. 2018, YT; 3 exs., 真謝登武那覇園地, 6. VI. 2018, YT.

寄主植物であるアカメガシワのルッキングおよびスウィーピングによって得られた。寄主植物としての記録はないが、今回の調査ではオオバギ（トウダイグサ科）からも得られた。

8. オキナワナガタマムシ沖縄亜種 *Agrilus okinawensis shiozakii* Tōyama, 1985 (図 11)

検視標本：4 exs., 儀間アール浜, 6. VI. 2018, YT; 15 exs., 嘉手苅白瀬川公園, 7. VI. 2018, YT & HY; 1 ex., 兼城白瀬川公園付近, 7. VI. 2018, YT.

久米島初記録。本種は、日本国内において奄美大島以南の島々に分布することが知られており（秋山・大桃, 2000; 惣慶・土川, 2005; 大桃・福富, 2013), 最近では宮古諸島の多良間島からも記録されている（酒井, 2018)。国内からは2亜種が認められており（Tōyama, 1985), 久米島の個体群は上翅が一樣に灰色毛で覆われることから沖縄亜種とした。海岸や河川周辺で、寄主植物の一つであるクロヨナ（マメ科）のスウィーピングによって得られた。

9. ウエノナガタマムシ *Agrilus uenoi* Kurosawa, 1963 (図 12)

検視標本：2 exs., 西銘だるま山園地, 5. VI. 2018, YT.
寄主植物の一つであるスダジイのスウィーピングによって得られた。

10. オオダンダラチビタマムシ *Trachys dilaticeps* Gebhardt, 1928 (図 13)

検視標本：1 ex., 島尻アール林道, 4. VI. 2018, YT; 2 exs., 西銘だるま山園地, 5. VI. 2018, YT & HY; 1 ex., 同地, 6. VII. 2018, HY; 1 ♂, 2 ♀♀, 具志川大岳, 24. VIII. 2018, RN.

久米島初記録。本種は、日本国内において九州および南西諸島の島々に分布することが知られており（大桃・福富, 2013), 最近では加計呂麻島からも記録されている（瑠寺・吉武, 2018)。寄主植物であるスダジイのスウィーピングおよびピーティングによって得られた。

おわりに

本報告により、久米島から記録されたタマムシ科甲虫は13種となった。周辺の主要島における構成種（秋山・大桃, 2000; 大桃・福富, 2013) と比較すると、久米島産タマムシ相は沖縄島と共通の要素を多く含んでいることが分かる（表 1)。しかし、沖縄島とは異なり、久米島ではツツタマムシ亜科の構成種が全く見られないだけでなく、ナガタマムシ亜科に属するナガタマムシ属の多くの種および日陰を好むキンイロエグリタマムシやチュウジョウケシタマムシなど、主に良好な森林環境で見られる種が欠落している。また、久米島のウバタマムシが固有亜種とされていることや、日本国内では沖縄諸島の一部にのみ分布するエサキクロタマムシ（大桃・福富, 2013; 楠井, 2015; 稲田ら, 2016; 里見, 2018) が久米島から確認されていることは特筆すべき点である。

今回の調査では5種の新分布記録種が採集されたが、この島におけるタマムシ相の解明度は未だ高いとは言えない。今後の詳細な調査によって種レベルでの新分布記録がさらに増えるものと思われる。

謝辞

末筆ながら、久米島産の貴重な標本をご恵与くださった長野宏紀・金子直樹両氏にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 秋山黄洋, 1990. 琉球列島のウバタマムシ類新産地. 月刊むし, (238) : 18–19.
- 秋山黄洋, 1993. タマムシ科5種の分布記録. 月刊むし, (274) : 8.
- 秋山黄洋・大桃定洋, 2000. 世界のタマムシ大図鑑. 341 pp. むし社, 東京.
- Hattori, T., 2014. New species of the genus *Toxoscelus* (Insecta, Coleoptera, Buprestidae) from Taiwan and the Ryukyu Islands. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A, Zoology, Supplement*, 8: 1–35.
- 林 信一, 2006. 久米島でオオシマルリタマムシを採集. 月刊むし, (430) : 14.
- 檜木忠志, 2018. 八重山諸島の黒島・小浜島で採集したタマムシ. 月刊むし, (568) : 55.
- 稲田悟司, 1999. 久米島のエサキクロタマムシ追加記録. 月刊むし, (346) : 41.
- 稲田悟司, 2016. 伊平屋島・粟国島(沖縄県)におけるタマムシ類の記録. 月刊むし, (550) : 8.
- 稲田悟司, 2018. 2018年, 伊平屋島における甲虫類の記録. 月刊むし, (574) : 44–45.
- 稲田悟司・山田 航・福富宏和, 2016. 慶良間諸島のタマムシ. 月刊むし, (537) : 4–9.
- 市川裕二, 1997. 久米島でエサキクロタマムシの死骸を拾得. 月刊むし, (311) : 36.
- 小林信之, 1983. 久米島におけるエサキクロタマムシの採集例. 月刊むし, (154) : 3.
- 小林信之, 1987. 慶良間諸島座間味島のタマムシ2種. 月刊むし, (202) : 17–18.
- 小林信之, 1988. 久米島におけるサツマウバタマムシの記録. 月刊むし, (206) : 36.
- 小林信之, 1996. 13年ぶりに採集された沖縄諸島久米島のエサキクロタマムシ. 月刊むし, (308) : 13.

- Kurosawa, Y., 1954. Buprestid-fauna of Eastern Asia, (Coleoptera) (1). *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo*, 1 (1) : 29–39.
- Kurosawa, Y., 1974. A revision of the East Asian species of the genus *Chalcophora* (Coleoptera, Buprestidae), with special reference to their distribution and difference. *Memoires of the National Science Museum, Tokyo*, (7) : 169–192.
- 楠井善久, 2015. 沖縄県慶良間諸島におけるタマムシ2種の記録. さやばねニューシリーズ, (15) : 6–7.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
- 定木良介・久保田達也, 2016. 久米島におけるオオシマルリタマムシの記録. 月刊むし, (539) : 58.
- 酒井 舜, 2016. 伊平屋島および野甫島におけるタマムシ科甲虫4種の記録. 月刊むし, (550) : 9.
- 酒井 舜, 2017. 久米島におけるミドリナカボソタマムシの記録. 月刊むし, (562) : 27.
- 酒井 舜, 2018. 宮古列島多良間島におけるオキナワナガタマムシの記録. 月刊むし, (571) : 51.
- 佐藤文保, 1995. 久米島の小動物. pp. 26–64. 沖縄県立博物館(編), 久米島総合調査報告書, 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築. 364 pp. 沖縄県立博物館, 那覇.
- 惣慶裕幸・土川浩司, 2005. 宮古列島で採集したタマムシとカミキリムシ. 月刊むし, (407) : 26–27.
- 瑤寺 裕・吉武 裕, 2018. オオダンダラチビタマムシの加計呂麻島からの記録. さやばねニューシリーズ, (29) : 58.
- Tôyama, M., 1985. The buprestid beetles of the subfamily Agrilinae from Japan (Coleoptera, Buprestidae). *Elytra, Tokyo*, 13: 19–47.
- 里見大輔, 2018. エサキクロタマムシの沖縄島における再発見および慶良間諸島における記録. さやばねニューシリーズ, (30) : 29–30.
- 高良鉄夫・東 清二, 1974. 久米島の昆虫相. pp. 71–88. 沖縄自然研究会(編), 久米島県立自然公園候補地学術調査報告, 沖縄自然研究会調査報告, (1). 110 pp. 沖縄自然研究会, 那覇.

(2019年1月5日受領, 2019年2月20日受理)

【短報】西表島におけるタマムシ科甲虫3種の記録

西表島は八重山諸島に属し, 同諸島で最大の面積(約289 km²)を誇る自然豊かな島である。これまでに西表島から記録されたタマムシ科甲虫は30種(大桃・福富, 2013; Saiki *et al.*, 2018)であるが, 同島の西約30 kmにある石垣島(面積約222 km²)の37種に比べると少なく, 調査の余地が残されている状況にある。

筆者らは2015年10月と2017年5月にそれぞれ西表島を訪れ, 昆虫相の調査を行った。その結果, 同島初記録となるタマムシ科甲虫3種を採集したのでここに報告する。なお, 採集地名は沖縄県八重山郡竹富町がすべて共通のため省略し, 採集者名は以下のように略記する: 瑤寺裕(YT); 福富宏和(HF)。得られた標本は採集者がそれぞれ保管している。

1. セキナガタマムシ沖縄・八重山亜種 *Agrilus sekii yaeyamanus* Ohmomo, 2004

検視標本: 3♂2♀, 南風見南風見田の浜, 20. X. 2015, HF; 1 ex., 同所, 28. V. 2017, YT (図1)。

本種はこれまでに奄美大島および沖縄島, 石垣島から記録されていたが, 今回の調査により, 西表島における分布が新たに確認された。沖縄島と石垣島の個体群は, 上翅が赤銅色で黄金色短毛に覆われることから沖縄・八重山亜種とされる(Ohmomo, 2004; 大桃・福富, 2013)。寄主植物であるクワノハエノキ(アサ科)のスウィーピングによって得られた。本種成虫の10月の採集例は, 筆者らの知る限り他に知られておらず, 少なくとも西表島では年に2回発生していると考えられる。

2. デグチナガタマムシ *Agrilus deguchii* Tôyama, 1985

検視標本: 1 ex., 南風見南風見田の浜, 28. V.